



多くの方の支援によって

私たちは、地域の中で活動をしていく「照子親^{てらこや}」をしています。主な活動は、自然体験、地域交流、学習支援、宿泊学習、バス研修、

たけのこほりや潮干狩りなどの体験学習をしています。夏休みや冬休みには、保護者や地域の方々と一緒に学校で勉強会を開催しています。勉強だけでなく、スポーツ教室、創作活動、遊びも取り入れています。そして、毎年テーマを決めて、子どもたちが年間を通してさまざまな気づきを得られるような企画を実施しています。私たちの活動は、みなさんの思いやりで成り立っていて、できることをできる人がしているので、感謝の思いばかりで苦労を感じたことはありません。その思いやりの活動を子どもたちが近くで見ること、人と繋がることの温かさを伝えられていると思っています。また、地域のお母さんたちとの繋がりも強くなり、お母さん同士で悩みを共有したり助け合ったりして、人と人との繋がりができていることは嬉しいです。活動は4年目に入り、子どもたちと一緒に活動できることは本当に嬉しく、子どもたちの未来を考えると、とてもワクワクします。



Kananowaの広報誌活動の様子が掲載されている



これからは、コミュニティスクールをもっと拡げていきたいと考えています。現在、夜の勉強会を私の自宅で行っていますが、学校でできたらいいと思います。そうすることで、親の仕事の関係で家に一人にいる子どもたちにもっと寄り添うことができます。また、子どもたちの未来が良くなるように、親や地域の方々、先生と一緒に導いていくことができます。

(取材：金田、藤本)

役に立てるアドバイスができるように

美和病院は小さい病院なので、外来で来られる患者さんから専門外の症状を相談されることが多く、患者さんに対してできることを日々考えながら診察しています。定期的に外来に通ってこられる患者さんから、「良くなったよ」と言われた時は本当に嬉しかったです。

また、診察の際に患者さんが体の面だけでなく、生活の悩みなどを相談してくれるようになりまし



診察の様子

た。これは、患者さんが私を信頼してくれている証拠なので、これからもいろいろなことに対応できるように経験を積んでいきたいと思っています。例えば、患者さんの物忘れがひどくて今の生活が難しくなったときには、生活の援助・福祉サービスの提案が必要となります。家族のこまめしつかり考えて、介護面のサービスに繋げるなど、一歩踏み込んだ地域医療を進めていきたいと日々思っています。

(取材：大久保、原田)

難病で他界した元教員が残した言葉との出会い

長い闘病生活の末に亡くなられた小学校教員、荒木佳奈さんの日記を偶然読む機会がありました。そこには、「生きていられることが、どれだけ幸せなことなのか」ということが書かれていました。佳奈さんは他にも多くのメッセージを残していたので、それらを佳奈さんのご両親と一緒に「つたえたいことだま」という本にしました。その佳奈さんの想いを受け取



「つたえたいことだま」

り、子どもたちの未来のために、私たちが今できることをしてみようという活動を始めました。



子どもたちに生きることの大切さを伝える

動ける体を持っているのに、動かないのもつたえない!その思いから一歩を踏み出し、子育て支援をしています。